

平成 21 年 9 月 1 日

ステロイドは炎症を抑える効果があり、湿疹、皮膚炎、虫さされ等多くの皮膚症状に外用剤として使用されています。みなさんは“ステロイド”と聞いて、どのようなイメージが浮かぶでしょうか？今回は、「ステロイド外用剤」についてお話ししたいと思います。

● ステロイドとは？

腎臓の上にある副腎という臓器からは、副腎皮質ホルモンが分泌されています。副腎皮質ホルモンは、健康を維持するための大切なホルモンです。この副腎皮質ホルモンに似せた物質をつくり、お薬としたのが副腎皮質ホルモン剤で、ステロイド剤とも呼ばれています。

ステロイド剤は、炎症の緩和や免疫を抑える効果があり、様々な病気に使用されています。そのため、飲み薬、塗り薬、貼り薬、点眼薬、吸入薬、注射薬といった多くの種類の製品があります。

● ステロイド外用剤は、こわい薬？

ステロイド＝副作用 と連想される方もいらっしゃるかと思います。確かにステロイド剤は、使用方法を誤ると怖いお薬です。医師から指示された部位へ、必要な量を使用することが大切です。

★適切な量を使用しましょう

大量に使用すると副作用の危険性が高まります。しかし、必要な量を使用しなければ、十分な効果が得られません。

★指示された部位に使用しましょう

体の部位によってステロイドの皮膚からの吸収量は異なります。ステロイド外用剤は、強さの違いによって、5段階に分けられており、吸収率の高い部位（顔面、陰部など）には弱めのステロイドが選択されます。また小児では、成人より1段階弱いステロイド外用剤が用いられます。

従って、手足に塗る用に出されたお薬をそれ以外の場所（顔など）に使用したり、親子で使い回したりすると大変危険です。



● ステロイド外用剤の副作用

ステロイド外用剤は、適切に使用すれば、全身性の副作用が起こることはまれです。局所性の副作用としては、以下のような症状があらわれることがあります。

- ・皮膚が薄くなる*
- ・皮膚にしわ・スジができる*
- ・細い血管が浮き出る*
- ・顔がほてりやすくなる
- ・赤ら顔になる
- ・口の周りにぶつぶつができる
- ・にきびができやすくなる
- ・皮膚がかさかさになる
- ・菌やウイルスに弱くなり、とびひ、おでき、水虫、ヘルペスなどにかかりやすくなる
- ・毛深くなる*

(* 小児に見られやすい副作用)

これらの症状に気づいたら、主治医や薬剤師に相談してください。

● ステロイド外用剤を使用すると皮膚が黒くなる??

ステロイド外用剤を使用して皮膚が黒くなることはありません。日焼けの後に皮膚が黒くなるように、人間の皮膚は炎症を起こした後に黒くなる性質があります。ステロイド外用剤を使用すると、逆に皮膚が白くなることはありますが、時間が経過するとともに戻ります。これはステロイド外用剤に血管収縮作用があることと、皮膚の色素産生を抑える作用があるためです。



ステロイド外用剤によって現れるとウワサされている副作用で、誤解されているものはたくさんあります。気になっていることがあれば、医師や薬剤師に相談し、正しい理解のもと適正に使用しましょう。

<参考> 調剤と情報 2009/vol.15/No.4 調剤と情報 2007/vol.13/No.9